

編集後記

文部科学省の「平成17年度 特色ある大学教育支援プログラム」に、全カリ「立教科目」－建学の精神から学ぶ科目展開－」が採択された。これに伴い、特色GP採択を記念した第1回目のシンポジウムが、『自校教育』の意義とその可能性を探る」と題され、2005年12月5日に池袋キャンパスで開催された。本号では、「立教科目」の特集を組むと同時に、シンポジウムの筆録も掲載した。

「立教科目」とは、立教大学の建学の精神が問いかける「人間としての基本的なあり方」を考え、学び、行動へと学生を誘う科目群である。この科目群が評価されたのは、それぞれの科目の内容において、ゲスト・スピーカーを講師に招くなどの方法に工夫がなされていることもさることながら、大学のミッションを体現するための教養教育が実現されている点にあらう。

専門を身につけることは確かに重要である。しかし、その一方で、「なぜ立教大学で学ぶのか」ということについて、学生に理解してもらうことも重要であろう。例えば、私の専門は経営学であるが、経営学は、別に立教大学でなくても、他大学でも学ぶことはできる。そのような状況で、「なぜ、立教大学で経営学を学ぶのか？そこにどのような意義があるのか？」という問いに、我々は常に向かい合っていかななくてはならない。大学が選ばれる時代になったからこそ、とりわけその間に答えることの重要は高まっていると言えよう。

もちろん、そうは言っても、一つ一つ全ての授業でそのような問いに答えていくことは難しい面もあらう。しかし、その一方で、全教職員が、そのような意識をもって教育・研究に当たることは重要であるし、学生にきちんと伝えていくことが必要であろう。その一つの手段が「立教科目」なのである。その意味では、「立教科目」は、立教大学のアイデンティティに関わる重要な科目であり、これからの時代に、よりいっそう必要とされる科目であるといえよう。

そのような「立教科目」について、本号で特集を組むことができたのは、誠に喜ばしいことである。現代ほど、立教大学の建学の精神が本当に必要とされている時代はない。これを体現している「立教科目」のよりいっそうの発展に、本号の特集が一助となれば幸いである。

最後になったが、ご多忙の中、本号に玉稿を下さった方々に、深く御礼を申し上げます。

石川 淳 (いしかわ じゅん)
本学社会学部助教授